

報 告

1. 第 11 回円山川流域委員会

(1) 委員会開催

日 時：平成 16 年 9 月 14 日（火）13:00～16:00

会議場所：但馬地域地場産業振興センター 2F 多目的ホール（豊岡市）

(2) 議事

円山川に関する想い・意見の集約結果の報告及び意見交換

今後の委員会の進め方

課題検討会について

その他

(3) 審議内容および決定事項

1) 円山川に関する想い・意見の集約結果の報告及び意見交換

- ・これまでの委員会、アンケート、ヒアリングで述べられた円山川に関する想い・意見を抽出、集約した結果の作業工程報告が行われ、その集約結果である「委員の意見の集約フロー」に関して意見が交わされました。また、今後の整理手法に関する話題提供として、川合委員、藤田委員長より整理手法の一例が提示され、議論されました。

2) 今後の委員会の進め方

- ・今後の具体的な委員会の進め方（スケジュール案）と委員会の準備作業的な場として開催する課題検討会の内容が示され、議論されました。

- ・委員会での検討内容整理や課題への理解を深めるため、課題検討会を開催する。
- ・課題検討会の進め方やその内容などについては、第 1 回課題検討会の中で議論する。
- ・課題検討会では、課題検討会の開催呼びかけや委員会での報告を行う世話人を設置する。第 1 回課題検討会の世話人は藤田委員長とする。
- ・関係住民意見の整備計画への反映のあり方については、この事項に詳しい委員へのヒアリング等を実施したうえで、次回委員会において住民意見の聴取方法を議論する。

3) その他

- ・第 1 回課題検討会は、10 月上旬頃に開催することとなりました。
- ・第 12 回流域委員会は、12 月中旬に開催することとなりました。

2. 前回委員会からの経過

委員会での検討内容整理や課題についての理解を深め、河川整備計画について適切な意見を述べることを可能とするために、第 11 回委員会で課題検討会の開催が了承されたことを受けて、平成 16 年 10 月 13 日に第 1 回課題検討会が開催されました。

そこでは、運営方針や治水に対する議論が行われ、引き続き第 2 回課題検討会でも「住民が安全に、安心して暮らせる円山川」について議論を進めることとなりました。

しかし、この第 1 回検討会の 1 週間後に台風 23 号による災害が発生したため、第 2 回課題検討会では、予定していた、委員会における「住民が安全に、安心して暮らせる円山川」についての検討内容を整理していく議論を変更し、台風 23 号による被害状況を把握する目的で現地視察を行いました。

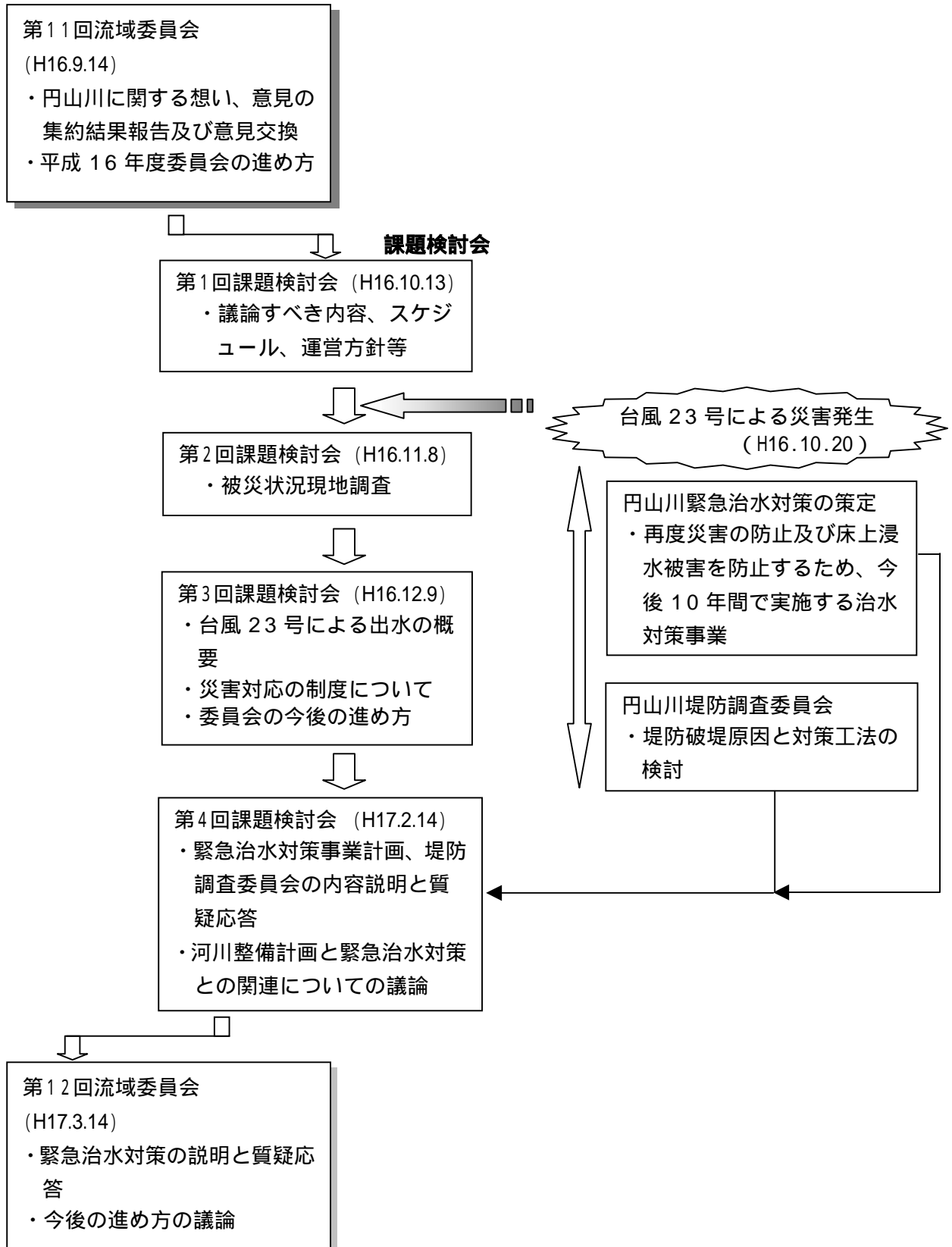
ついで、出水概要や被災状況をデータで把握し、災害復旧のための制度について理解するため、平成 16 年 12 月 9 日に第 3 回課題検討会を開催し、河川管理者から資料提供と説明を受け、それらについて質疑を行いました。その中で、課題検討会あるいは流域委員会の今後の進め方についてオープンフォーラムの開催等、委員の意見を知るためにアンケートを行うこととなり、年末に掛けてそれが実施されました。

その後、災害復旧事業として河川管理者によって検討されていた円山川緊急治水対策が年末に新聞発表されたこと、堤防破堤の原因と対策を検討する堤防調査委員会の結果が平成 17 年 1 月末に提示される見通しがついたこと、並びに、アンケートに述べられた各委員の意見を踏まえ、これらについて内容を把握しておくことが流域委員会における今後の議論にとって重要であるとの観点から、平成 17 年 2 月 14 日に第 4 回課題検討会を開催しました。

以上のような 4 回開催されました課題検討会における一連の議論の結果、円山川緊急治水対策と河川整備計画のあり方及び今後の委員会の進め方について公開の場で議論すべきであるとの共通の認識が醸成され、本日の第 12 回円山川流域委員会の開催に至っております。

流域委員会の流れ

台風 23 号に関連した動き



第 11 回委員会からの経緯フロー図

3. オープンフォーラムに関するアンケート結果

第3回課題検討会において、台風23号の被災者である住民からの意見を河川整備計画を策定する上で活かしたいとの意見があり、流域委員会による住民からの意見聴取の場としてオープンフォーラムを開催してみてもどうかとの意見がありました。

このため、平成16年12月末にオープンフォーラムの開催について、全委員にアンケート調査を行いました。アンケート調査の結果は次のとおりです。

次回の会議について

- オープンフォーラム形式による意見聴取でよい。・・・14名
- 他の方法により開催する方がよい。・・・4名

(主な意見)

- ・ 円山川流域委員会主催で実施し、河川管理者と一般参加者のやり取りに終始しないよう配慮して、河川管理者はオブザーバー参加とし、発言を控える。
- ・ 一般参加者の中で意見を発表される方が限定されないように、発表者の重複制限や時間制限を設定する必要がある。
- ・ 課題検討会を再度行い、河川管理者から円山川緊急治水対策の説明を受け、内容を理解した上でオープンフォーラムに臨むべきである。
- ・ もう少し丁寧に現場の話聞く必要があるのではないか。実態を掴む方法として、行政が掴んでいる情報を聞いたり、市民から直接聞き取る方法など他の方法も考えられるのではないか。
- ・ 課題検討会を継続して実施する。

オープンフォーラムを行う場合の話題提供の内容について(自由記述)

- ・ 被災した者として、被災の状況、復旧の段階で河川管理に関して感じたこと、今後の取り組みの方向について
- ・ 円山川の流域の保水力、遊水機能等に関するこれまでの議論のまとめ
- ・ 台風23号の雨の降り方と出水について